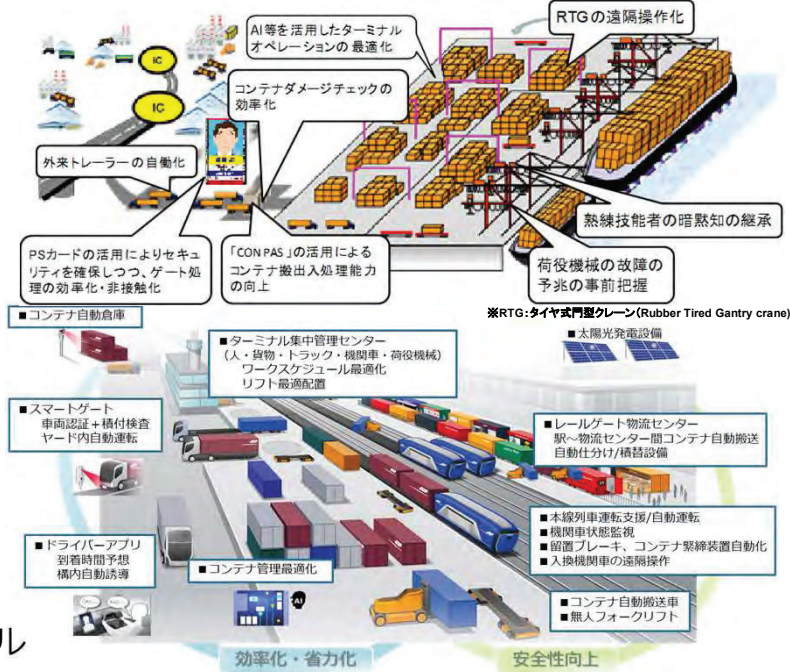


3:強靱性と持続可能性を確保した物流ネットワークの構築（強くてしなやかな物流）

(1)感染症や大規模災害等有事においても機能する、強靱で持続可能な物流ネットワークの構築

災害発生時の基幹的海上交通ネットワーク機能の維持、
「ヒトを支援するAIターミナル」の各種取組の推進、
自動運転・隊列走行を見据えた道路整備 等

■ 「ヒトを支援するAIターミナル」の各種取組の推進



■ スマート貨物ターミナル

■ 自動運転・隊列走行を見据えた道路整備

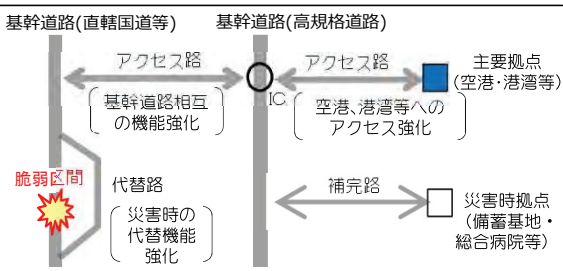
■ 各輸送モードにおける輸送の安全確保

<主なKPI>
・道路による都市間速達性の確保率【57%(2019年度)→63%(2025年度)】
・港湾の耐災害性強化対策(地震対策)
(大規模地震時に確保すべき海上交通ネットワーク(約400ネットワーク)のうち、発災時に使用可能なものの割合)
【33%(2020年)→47%(2025年)】

(2)我が国産業の国際競争力強化や持続可能な成長に資する物流ネットワークの構築

重要物流道路の拡充等トラックの大型化に対応した道路機能強化、
国際コンテナ戦略港湾政策の推進、農林水産物・食品の輸出拡大、
物流事業者の海外展開支援 等

■ 重要物流道路ネットワーク



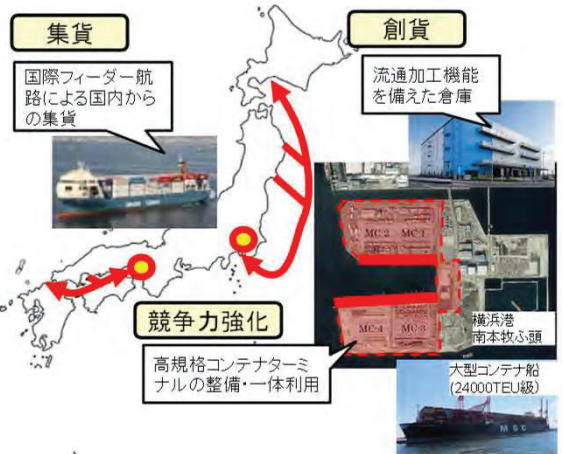
■ 農林水産物・食品の輸出拡大



■ 物流事業者の海外展開支援

- ・日本式コールドチェーン物流サービスを基にした国際標準の普及
- ・規制・インフラ等の改善に向けた働きかけ
- ・官民ファンドの活用

■ 国際コンテナ戦略港湾政策の推進



国際基幹航路の維持・増加

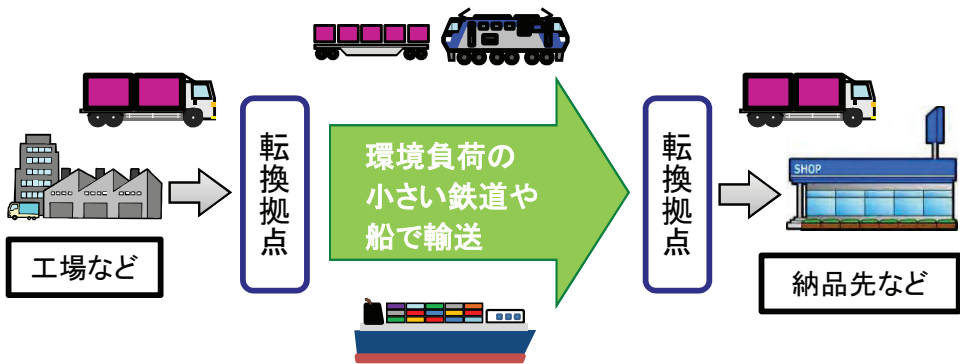
<主なKPI>
・我が国に寄港する国際基幹航路の輸送力の確保
【京浜港 週27万TEU(欧州:週2便、北米:デیلیー寄港、中南米・アフリカ・豪州:3方面・週12便)
阪神港 週10万TEU(欧州:週1便、北米:デیلیー寄港、アフリカ・豪州:2方面・週5便) (2019年7月)
→京浜港 週27万TEU以上(欧州:週2便、北米:デیلیー寄港、中南米・アフリカ・豪州:3方面・週12便)
阪神港 週10万TEU以上(欧州:週1便、北米:デیلیー寄港、アフリカ・豪州:2方面・週5便) (2023年度)】
・アジアにおける我が国物流事業者の海外倉庫の延床面積【2025年度までに2020年度比27%増】

3:強靱性と持続可能性を確保した物流ネットワークの構築（強くてしなやかな物流）

(3)地球環境の持続可能性を確保するための物流ネットワークの構築

モーダルシフトのさらなる推進、荷主連携による物流の効率化、各輸送モード等の低炭素化・脱炭素化の促進 等

■ モーダルシフトのさらなる推進



■ 航空分野における脱炭素化



■ 次世代自動車等の普及促進



■ ゼロエミッション船の商業運航の早期実現



■ 倉庫の低炭素化の推進



■ カーボンニュートラルポートの形成



<主なKPI>

- 一定規模以上の輸送能力を有する輸送事業者の省エネ改善率 (特定貨物輸送事業者 (鉄道300両～、トラック200台～、船舶2万総トン～) 及び特定航空輸送事業者 (9000トン～))
【毎年度 直近5年間の改善率の年平均－1%】
- モーダルシフトに関する指標
- ①鉄道による貨物輸送トンキロ 【184億トンキロ (2019年度)→209億トンキロ (2025年度)】
- ②海運による貨物輸送トンキロ 【358億トンキロ (2019年度)→389億トンキロ (2025年度)】

機械化・デジタル化を通じて物流のこれまでのあり方を変革すること

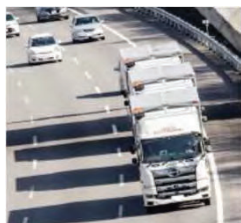
(物流DXにより、他産業に対する物流の優位性を高めるとともに、我が国産業の国際競争力の強化につなげる)

- ◆既存のオペレーション改善・働き方改革を実現
- ◆物流システムの規格化などを通じ物流産業のビジネスモデルそのものを革新

サプライチェーン全体での機械化・デジタル化により、情報・コスト等を「見える化」、作業プロセスを単純化・定常化

物流分野の機械化(主要な取組例)

幹線輸送の自動化・機械化



トラック隊列走行／自動化



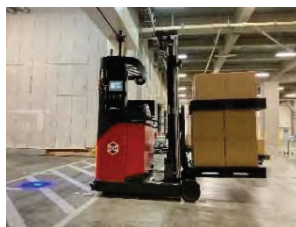
自動運航船

ラストワンマイル 配送の効率化



ドローン配送

庫内作業の自動化・機械化



自動配送ロボ

物流のデジタル化(主要な取組例)

- ・手続きの電子化(運送状やその収受の電子化、特車通行手続の迅速化等)による業務の効率化
- ・点呼や配車管理のデジタル化による業務の効率化
- ・荷物とトラック・倉庫のマッチングシステムの活用による物流リソースの活用の最大化



※民間企業の取組の例

- ・トラック予約システム導入による手待ち時間の削減
- ・SIP物流(物流・商流データ基盤)やサイバーポートの構築により、サプライチェーン上の様々なデータを蓄積・共有・活用し、物流を効率化
- ・AIを活用したオペレーションの効率化
(「ヒトを支援するAIターミナル」の各種取組や、AIを活用した配送業務支援等)



AIを活用した配送
ルートの自動作成

相互に連携